SHIMIN PRESS

「市民フォーラム」

hara@camelianet.com 090 (3048) 5502

昭二

デジタル工房

〒353-0004 埼玉県志木市本町 2-4-43

市民の目線で市民が発信する地域情報紙 **WEB SHIMIN** http://shimin.camelianet.com

CONTENTS

地域のニュース&ギャラリー いろは市

秋 武蔵野の町 かいじろう詩画 「江戸」のまちづくりは・・・

江戸氏のまちづくり 三百余年! この人江戸重長・江戸前島

マイクロ COM からスマートフォンへ

PCの展開 1/3世紀を語る

地域のニュース&ギャラリー いろは市

第58号

10月5日

原

発行人 編集人

制作

E-mail

-PAGE 1

-PAGE 4

PAGE 2 · PAGE 3

菩提寺の慶元寺

抱かれる

河越氏は、上戸

(現·川越市上戸・

武蔵野の町

かいじろう画

9 5 6

かいじろう

秋になると 空はひろびろとする 詩

ぼくの心も ひろびろとする

透んでいる 秋の空はみつめられている 紅葉に彩られた木々の枝々に あなたの愛も ぼくの愛も 深く 秋になると 空は深く透んでいる

みつめている どこかで だれも知らない瞳が あなたの愛も ぼくの愛も

ゆったりと幸福の山々が ほらごらん! 遠くをごらん! 眠っている

飛んでゆくのはどなた? どなた? 高い青空に消えてゆくのは

あなたの愛も ぼくの愛も 秋になると 空は腕なをさしのべて ぼくの心も 大きくなる 静かに足音を残して

秋になると 空は大きくなる

江戸 氏のまちづくり 三百余年!

「江戸」のまちづくりは・・・

安時代後期のことである。 の一族によって始められた。平 桓武平氏の流れを汲む秩父党

武蔵国秩父地方から出て、河 (現・川越市)を拠点とした

鯨井地区)の台地に荘園を開い ろと伝えられる。 永暦元年 (1160) のこ

が可能となったことは、誠に幸 時の規模や景観を推定すること いなことである(本紙53号参照)。 大規模な発掘・調査の結果、当 国指定史跡「河越館跡地」 の

河越重頼は、それに先立つ保 秩父氏の嫡流だった河越氏

<第7回全日本学生油絵コンク

を営むためには、要害の地を選 ともいわれる。したがって居館 めの城を兼ねていたので、城館 も防禦の構えをもち、戦闘のた

元の乱で、源義朝に従って上洛 標高がもっとも高く、 ばねばならなかった。 現・皇居が占めている台地は

台地の北

人口に大きな中州があって江

ている。

成立したと思われる軍記物語と

平家の栄華と没落を描い

次頁につづく

した日記も残され、

鎌倉時代に の公家が記

なお同時代に、都

その場所は、 称し、江戸氏 後の本丸・二 郷の高台(現・ を興して桜田 て江戸四郎と 居館を構えた。 麹町台地)に の地名をとっ くりを始めた。 蔵国「江戸郷」 残している。 彼は「江戸 江戸に進出した江戸氏 卍浅草寺

定される。 ないか、と推 ノ丸辺りでは 鳥越社 江戸前島 日比谷

しかし、残念なことに、 江戸館の遺構は皆無である

中世の豪族の居館は、平常で が使われたので、それが「日比 は遠浅で波は静か、海中の海苔 流れる川は湊に注いでいた。海 れらの間には谷や沼があって、 麻布、品川台から成り立ち、そ をとるために、竹で編んだヒビ 谷」の地名になったともいわれ 五つの台地、上野、本郷、麹町、

武蔵野台地は西から東へ 霞ヶ関 麻布台地 (桜田郷)

枢と見られ、当時の権力者で 述である。その頃ま 時代末の頃で、編纂者は幕府中 もののようだ。 あった北条得宗家の側からの記 た記録、伝承などか 成立したのは鎌倉 ら編纂した で残ってい

境を流れる河川の西に位置し、 規模な改造によって、江戸氏の 灌の築城、つづく徳川家康の大 は赤坂の溜池がある谷地を控え 低湿地帯には葦や萩の生い茂る で、選ばれたのであろう。重継 の嫡男、重長は江戸郷の豪族と て、天然の要害をなしていたの して君臨したが、その後太田道 で、「江の入り口」という考え たので、平安時代後半に発生し は諸説があるが、江 たものと考えられ、 たに違いない。 者の棟梁、江戸氏は む平川の流域に、人 戸前島と呼ばれ、 は入江、戸は入口を意味するの を建てたのである。 付近一帯を支配していた坂東武 いていた。平安時代の 万がもっとも自然である。 には果てしない眺めが開けてい 『吾妻鏡』にはじめて誌され 『江戸』の地名は・ 々が住みつ 江に流れ込 終りころ、 高台に館

2。草深い原野だった・・・ 館は全く消滅してしまった。 江戸は、武蔵国と下総国の国

原野だった。 この光景を詠んだ奈良時代の

武蔵野は

(『万葉集』)

月の入るべき山もなし

れているが、「高家」(格式の高 い名門)の一人としてその名を したことが『保元物語』に記さ

秩父氏一統はさらに入間川

(現荒川) 沿いに平野部へと進出 し、秩父重綱の四男重継は、武 を相続して街づ

草より出でて 草にこそ入れ

鑑』(あずまかがみ、あづまかがみ) 史料となっている『吾妻鏡』(『東 3。『吾妻鏡』の重要性 ここで、鎌倉時代研究の基本

ておく。 とも)について触れ

文永三年 という構成で、治承 府の初代将軍・源頼 編年体で記されてい まで、幕府の事績が 尊親王までの将軍記 朝から六代将軍・宗 四年(11 この書は、 1266 80) から 鎌倉幕

金杉川(古川)





いろは市 第26回チャリティー き:平成2年8月2日 東日本大震災復興支援

地域 <u>の</u> ュ ヤ ース&

東に沿って平川が流れ、

ところ: 志木市本町通り

は川あるい その由来に その向こう

大宮アルディージャ / キックターゲット

*前ページからつづく

立つ。 の照合は、歴史を紐解くために役 た『平家物語』があり、それらと

 4_{\circ} は・・・ 江戸氏が歴史に現われたの

房・房総にわたり、再起して鎌倉 四年 (1180)、武家政権を樹立 男で、正史に登場したのは、治承 した源頼朝が、相模国で敗れて安 重長は、秩父氏一統、 **江戸重長の時代になってから**

下にしてしまう。平氏から源氏へ、 る。そのドラマをつぎに詳しく紹 変節によるまさに劇的な登場であ ていた重長を、ついには源氏の配 介することにしよう。 に向かったときのことになる。 隅田川を渡河しようとした源 頼朝は、それまで平家に与し

治承四年八月十七日に遡る・・・

頼朝に対して、大庭景親は、石橋 北条時政らは、韮山にあった兼隆 二十三日、数に勝る大庭勢は圧勝 中へ逃げ込んだ(石橋山の戦い)。 のである。しかし、 攻撃目標としたのは、伊豆国目代 の屋敷を襲撃して彼を討ち取った (国司の代理人) 山木兼隆であった。 した。寡兵の頼朝軍は壊滅して山 三浦氏との争い 源頼朝が挙兵したとき、第一に (神奈川県小田原市)で対峙し、 (神奈川県湯河原町)に進出した 相模国土肥 市川市)に一万余の大軍を集め、 九月十七日、彼は下総国府(現・

数千騎の武士団を率いて重忠軍に 河越重頼に加勢を呼びかけたの 倉市由比ヶ浜)で合戦、二十六日、 重忠は同じ秩父氏の総領家だった 畠山重忠と相模国、由井の浦(鎌 二十四日、平家方の武将であった 台流、三浦氏の本拠地である衣笠 源氏方に付いた三浦氏は、 (現・横須賀市) 重頼は同族の江戸重長と共に た。ところが日の出の勢いの進軍 を阻んだのは、

検校職」にあり、武蔵国の軍事統 館として、秩父党の総領家が代々 川越市の北、上戸地区に所在)を居 受け継いできた「武蔵国留守所総 **率権をもつ最大勢力であった。** そのころ河越氏は、「河越館」(現・

る)であり、またその河口の水運

平良文の末裔で、桓武平氏の流れを

に使いを送り、大庭景親(一族は秩父一族の切り崩しを図って重長

中川・隅田川 <入間川 >となってい を流れる利根川(現在では江戸川・

を握っていた江戸重長だった。

脱出して頼朝軍と合流するために 夜になってついに衣笠城を放棄、 先の合戦で消耗した三浦氏は、

頼朝らは安房国に

日房総に上陸した頼朝は、その地 二十八日、真鶴岬から船出し、翌 朝は、数日間の山中逃亡の後、 に勢力を持つ上総広常と千葉常胤 かな従者と共に山中へ逃れた頼 石橋山の戦いで平家に敗れ、僅

> 『義経記』には、利根川の下流で ではあるが・・・ として知られており、誇張のよう と記されている。この書は軍記物 戸氏は「坂東八ヵ国の大福長者」 あった隅田川の様子が描かれ、江 える史料としてよく引かれる 江戸氏は豊かな財力をもってい 中世の江戸の殷賑ぶりを伝

5。 頼朝は江戸氏らを説き伏せる 一度は敵対した畠山重忠、河越

以仁王(後白河天皇の第三皇子。得ないことと思う。しかし乍ら、 伝えたのである。 している今、武蔵国は汝が棟梁で 能(重忠の父)・小山田有重が在京 令 旨で明らかなように、源氏の ある。もっとも頼りにしているの 頼朝に従がうべきである。畠山重 平家打倒の挙兵を源氏に促した)の 山の合戦に出陣したことは止むを 汲む相模国の武将)に促され、石橋 で、武士達を率いて参上せよ、と

重頼、江戸重長らを従え、十月六 重長が大庭景親に味方して、未だ さらに、翌二十九日条によれば、

戸氏のまちづくり三百余年

大きな変化をみせる。 る。頼朝をめぐる政治的な情勢は 伊豆から逃亡して約二十日後の

三万騎の大軍団を形成していた。 武藏国への進出を狙う。さらに て、歴史書の『吾妻鏡』によれば、 関東一円から多数の軍勢が集結し 当時関東とその周辺に拠点を構

二十八日条による

ず、また武田氏をはじめ、甲斐源 ら頼朝方に移ったものも少なから の図を参照)。 氏はしばしば平家を脅かした 源頼朝は重長に参陣を命ずる 頼朝は十月初め武蔵国に入る 葛西清重、足立遠元らを従え 〒

下総・武蔵国の間

[大意]:

頼朝は

等。可豫參之由云々。

棟梁。專被恃思食之

上者。催具便宜勇士

に参上を命じ、房総半島を北上す 日、かつて父義朝と兄義平の住ん だ鎌倉へ入り、大倉の地に居宅と の拠点としたのである。 なる大倉御所を構えて鎌倉を政治

げから鎌倉政権の樹立まで)、九月 が・・・ 『吾妻鏡』巻の一(頼朝の旗揚

は、頼朝方はもちろん、平家方か えていた数多の氏族たちのうちに 被召江戸太郎重長。 武藏國。當時汝已爲 令旨可奉相從。重能。 合戰。雖有其謂。 依景親之催。遂石橋 八日丁丑。遣御使。 **有重。折節在京。於** 治承四年九月大廿 守

『吾妻鏡』には緊迫した情景 だとして、頼朝方に付いていた同 に来ないので、やはり追討すべき 取るように命じている。数日後の じ秩父氏の葛西清重に対して、大 井の要害に重長を誘い出し、討ち

に参会す。河越太郎重頼、 畠山次郎重忠、長井の渡 (注) 十月四日の文を読み下すと、

●足利俊綱 ●小山朝政 下野 信濃 ●武田信義 ●伊藤祐親 ●平家方・頼朝と敵対 ●平家方から頼朝方へ 遠江 ●甲斐源氏 治承4年(1180年)の関東

は源家を射たてまつるといへど 義澄以下の子息門葉、多くもつて 郎重長また参上す。この輩、三浦 介義明を討ちし者なり。 も、有勢の輩を抽賞せられずんば、 武功を励む。重長等 しかるに

ずの旨、兼ねて以て三浦一党に仰 列座する者なり。(注)長井の渡し: こと成がたからんか。忠直を存ず 区橋場の辺りという。 「千代田区史」によれば、現台東 申す。よって各々相互に合眼して せ含めらる。彼ら異心無きの趣を る者は、更に憤りをのこすべから

びに諸郡司等に仰せ、沙汰を致せ せ付けらるる所なり。 しむべきの旨、江戸太郎重長に仰 武蔵国の諸雑事等、 在廰官人並

長は、実質上の国司代行権限を与 6。 秩父氏一族のちから えられたようだ。

荒川)を通り、東京湾に至る川筋 河越 (現・川越) の河越氏のほか、 は、同族によって支配されていた。 間川とつながる利根川水系の一部 浅草を支配する江戸氏などは、入 武蔵国豊島郡の豊島氏、江戸湊と このころ、川越から入間川 現.

戸にあった葛西城の葛西氏や、 も勢力を伸ばし、現・葛飾区青 や国衙のある多摩川下流などに 登戸の稲毛氏なども居館を構え

た・・・ 水運を一手に掌握してい

だったのか、それは江戸に集ま る河川の交通を通して蓄えたの ではなかろうか。以下、 土台として考察してみよう。 江戸氏が力を得た原動力は何 中世の江戸は水運が盛んだっ

> 子に付け替えられた)が流れ込み、 て、江戸は水運 武蔵国の北部の河川とも繋がっ に鬼怒川流域に変流され、河口を銚 入間川 (現·隅田川)、利根川 (後 の要めになってい ば・・・ 間川河口の浅草や「浅草湊」は、

7。「江戸前島」 は・・・

翌日の十月五日を読み下すと、 集まり、集落ができていた。 座を含む地域であるが、その付け 流入して、河口付近には人や物が 海や川の浸蝕によって削り残され 台地で、日本橋 代田区大手町・丸の内・京橋・銀 た微高地とされ 根の辺りには平川と旧石神井川が 本郷台地南端 台地ともいわれ、 ている。現在の千 駿河台につづく

いわば褒章として、江戸太郎重 の原型となった り込み、現在の日本橋川と神田川 なっていた。 内幸町・新橋・浜松町を含む)が入 「平川」の河口と

海に向かっていた。 根津―不忍池へと流れ、池ノ端― 田川に注いでいる。しかしかつて の流路によって、 湯島―須田町― つの入江があっ 野川に入ると、渓谷状の川となり、 の河口である。 は、飛鳥山西麓を JR王子駅の下る は、板橋区の南部を流れて北区滝 また江戸前島の東にはもう一 た。「旧石神井川」 伊田―日本橋堀留 を経て、千駄木-**ど通過したのち隅** 現在の石神井川 江戸前島東岸の

染川)の名で残っ 口の辺りが「江 その一部は、近年まで谷田川(藍 っていた。この河

央区新川2-31には、江戸時代 としての重要な立地が、近代の「東 湊」の記念碑が建てられている。 京港」に発展したともいわれ、中 したようだ。後世になっても港湾 (慶長年間)に幕府が開いた「江戸 尸湊」として繁栄

独自の存在として、「江戸」の外 域として扱われていた。

金竜山浅草寺「寺伝」によれ

ている。 黄金の聖観音像が引き上げられ、 これを奉安した縁起は広く知られ 戸川(入間川の一部)で討った網で、 推古天皇三十六年(628)、宮

江」(現・皇居外苑・日比谷公園・ 江戸前島の西側には「日比谷入 こから武蔵国の内陸部へと進出し 高地だった。海岸伝いにこの入江 古来から、武蔵野台地東縁部分が られ、浅草寺を中心とする一帯は、 にたどりついた渡来人たちが、こ 自然の地層のやま)であることも知 は「真土山」(人工の盛り土ではない、 たことも伝えられている。 川と海の浸蝕でわずかに残った微 浅草寺の北東に所在する待乳山

8。 江戸重長のその後・・・

されている。 州合戦に従軍したことが記録に残 五年(1189)七月~九月の奥 江戸重長は頼朝に臣従し、文治

弟の義経を匿まったという理由 兄に従わず、互いに不仲となった 武士政権を確立したのである。 戦いとなって、頼朝は全国を平定、 呼ばれ、治承・寿永の乱の最後の 藤原氏を滅ぼした。奥州征伐とも で、自ら奥州に兵を進め、ついに 源頼朝は、平氏を滅ぼした後も

巻に、 伐」と呼ばれている。同書の第九 『吾妻鏡』の記述では、「奥州征

『吾妻鏡』などでは、 七月小十九日丁丑。巳尅。二品(読み下し]:文治五年(1189) 三十人は鋤鍬を持た令む。 奥州の泰衡を征伐の爲、發向し給 腰〔雨皮を以て之を袋む〕を荷い、 前に在り。五十人は人別に征箭三世ん ふ。(中略) 御進發の儀、先陣は畠 山次郎重忠也。先ず疋夫八十人馬

に御駕。〔御弓袋差。御旗差。 おんが、おんゆぶくろきし みはたぎし 凡そ鎌倉出の御勢一千騎也。

名前が記されている。 同四郎重通、同七郎重宗・・・の 豊嶋権守清光、葛西三郎清重、 鎌倉自り出御の御供の輩として 郎、江戸太郎重長、同次郎親重、 御馬前に在り。〕 同

養の頼朝上洛に供奉する。 三月、江戸重長は、東大寺落慶供 供奉人の行列 その後、建久六年 (1195) | オニウェラ | 和田左衛門尉 〔各 不相並〕 | 和田左衛門尉 〔8 不相並〕 | 供奉人の行列 【先陣 【畠山二

な江戸城を新たに築城した年、す 次御隨兵(儀仗兵)〔三騎相並び 277年もの年月となる (江戸氏 なわち長禄元年(1457)まで、 灌が、江戸館を奪って、大掛かり 路傍に列す。其の人數合期(家格) 治承四年から数えると、扇谷上杉 に随う所也。〕 命、江戸四郎・・・ 江戸氏が『吾妻鏡』に初出した 家子、郎從同じく甲冑を着け、 上杉持朝の家臣だった太田道 品河太郎、豊嶋兵衛尉、足立 江戸氏の時代は三百年か? 江戸太郎、大井次 以下略

越えることはほぼ確かなようだ。 らなので、その年月は三百年を めたのは、歴史に現われる以前か ともいわれるが)。 江戸氏一族が江戸郷で活動し始

初期のころ、内部の勢力争いによっ 域を領有しながら散っていった。 重長は江戸氏一族の重鎮として鎌 の系統に分かれ、江戸周辺の各地 **倉幕府に仕え、子孫も繁栄した。** て滅ぼされた。それに対して、江戸 ただし、惣領の重長以後は多く 畠山重忠は、鎌倉幕府

御が次 なり、次第に力を失ない、 の城館は荒廃したようだ。 江戸氏

鎌倉幕府、北条氏が滅亡して・・・

とができず、 に突入する。 体が一般的となって、鎌倉武士団 容する武士階級の要求に応えるこ た後醍醐天皇の建武の政府も、変 の基本が崩れ、鎌倉幕府と代わっ 江戸氏のみならず、 ついに南北朝の内乱 惣領制の解 れにより、秩父氏一族が支配する 入間川(現荒川)を河越から江戸 墨田区)には別働隊を置いた。こ まで封鎖し、鎌倉街道を寸断して、

北朝に参じた江戸氏・・・

朝側の新田義貞に従って南朝方に 動揺は隠せなかった。江戸氏は南 藏の武士は北朝方の足利氏の麾下 に参じたが、足利氏の内訌(うち 方に仕えた。 つき、後に北朝に帰順して鎌倉公 わもめ)があったので、武士団の 南北朝時代になると、多くの武 基氏の後を継いだ足利氏満(当時 顕や武田氏・葛山氏らの軍勢の動 十才)を擁して河越に出陣し、憲 継いだ甥で婿に当る上杉朝房は、 通を絶ったと推定される。 員もあって、同年六月の河越の合



江戸重長像 (慶元寺)

は衰えたので、実効支配は250年

武蔵野合戦のころ

一族はそれぞれの運命を辿っ 摩川の矢口渡で謀殺される。江戸 子で鎌倉公方だった足利基氏と、 とが激突した。尊氏が没した半年 新田義興(義貞の子)と足利尊氏 なき男の振る舞いだ」とされて人 こまれた竹沢右京亮(江戸氏の一 後、延文三年 (1358)、尊氏の 氏は、この新田義興謀殺は「きた 族といわれる)と江戸遠江守高良 により、義興と主従十三人は、多 関東管領の畠山国清によって送り 正平七年(1352)、南朝側の

> 城の河越館に篭り、江戸牛島(現 重を大将に、一族の江戸氏や、村 蔵国の平一揆が蜂起した。河越直 山党の仙波氏など地元の武士が居 管領で、山内上杉家の始祖だった 杉憲顕が上洛した隙を狙い、武守派のりあき 発信したのは、平家から出た江

幕府を味方に付けた。関東管領を 鎌倉府と憲顕の本拠地上野国の交 上杉憲顕はすぐには帰国せず、

で敗退したのちは衰退に向かう。 戦によって反乱は鎮圧された。 さすがの江戸氏も、武蔵平一揆 江戸前島と鎌倉円覚寺文書

確認されたのは、源氏の頼朝が武 になってからであった。 蔵国に上陸した年から八十一年後 戸の街づくりでは、その核心となっ 戸前島」がはじめて史料に現われ、 下町を構成している。しかし、「江 た地域で、現在では、繁華な東京 すでに述べたように、「江戸前島」 江戸の地誌、水利を語り、江

され、同所に常設展示されている。 た文書で、「武蔵国豊島郡江戸郷 千代区日比谷図書館によって作成 されている。最近、同書の複製が 魚沼市上野に所在する同寺に保管 付けの「関興寺文書」が知られて 候し処に此両三年飢饉之間百姓一 いる。この書状は現在、新潟県南 平長重から五代右衛門尉に宛て

進してその被官(守護に従属する国 戸氏一族の一人、地頭江戸長重で、 東京駅周辺)を北条氏得宗家に寄 が出来なくなった前島村(現在の 「正嘉の飢饉」による荒廃で経営

覚寺に再寄進されたことの記録で 在が確かめられた。得宗家から円 (「円覚寺文書」として『鎌倉市史』 所領になっていたことを示す文書 には、江戸前島が鎌倉の円覚寺の にその詳細が掲載されている)の存

の大きさ、ときの権力者からの優遇 足利歴代将軍の名前も現われ、とき 長寺に次ぐ、鎌倉五山第二位の寺と 山として建立した寺で、 所領の大部の記述がみられる。寺領 の権力者が寄進した荘園や、領主の に北条時宗が宋からの渡来僧を開 11。職能集団だった江戸氏 して知られる。文書の中には北条、 特別なものであった。

速にその姿を消したようである。 妻鏡』の記述を見る限りでは、 として活動することはなく、『吾 は、既述したように、幕府の要人 源頼朝の配下に下った江戸氏 しかし、都市の歴史家として知

弘長元年 (1261) 十月三日 ぎのように評価している。

人領主)となったという。 さらに、正和四年 (1315)

円覚寺は、弘安五年 (1282) 中世から建 を改めて述べる予定である。

中世のころから都市的な状況、す 摩書房刊/1991)、江戸氏をつ なわち人・物の交流の場をもって られている鈴木理生は、「江戸は いた」と考え(「幻の江戸百年」 筑

専門的な商人集団だったようだ。 海運業務を運営する「いちば」の、 え、河口部の舟運や、他地域との したがって、幕府は江戸氏を一挙 彼らは利根川水系の産業を支

に滅ぼすことはせず、

徹したのではあるまいか。 ず、 12。江戸を奪取した太田道灌の記 彼らの職能を利用することに

録は語る・・・

うだ。 に水運のもたらす富を魅力とし から「江戸湊」へと乗り込んだよ て、当初に館を構えた「品川湊」 と、江戸城を奪取して、占拠した 太田道灌は、前島一帯の繁栄、特 つけ加えるならば、江戸のまち

璧に残存して、当時を蘇らせるこ とは、誠に幸いである。 た「詩板」の記録は、今もほぼ完

当寺は、文治二年 (1186)

「詩板」に記された詳細は、

を列挙してみよう。 族・庶流の名前は、いまも地名に 東京二十三区全域に広がった支 残されているのである。 た江戸宗家を中心に、ほぼ現在の 13。江戸氏の菩提寺は喜多見へ 現在の皇居東御苑に本拠を置い いくつか

谷七郎・・・渋谷区渋谷) **倉六郎・・・港区飯倉)**、 四郎・・・大田区六郷)、秀重(飯 大田区・川崎市丸子)、冬重(六郷 谷区喜多見)、家重(丸子三郎・・・ 江戸氏家(木田見次郎・・・世田 十五世紀になると、 十三世紀の半ばには、 元重 (渋

区)、石浜殿(台東区)、牛島殿(墨 並区)、桜田殿(千代田区または港 田区)、小日向殿(文京区) · · · · 喜多見村に移る・・・ 中野殿(中野区)、阿佐谷殿(杉

多見村」であった。江戸郷を治め ていた江戸氏が、 と称していたが、江戸時代は「喜 東京府下北多摩郡「砧村」喜多見 「喜多見」は、昭和初期までは 太田道灌によっ には徳川三代将 し、また、寛永-には永続資糧として五石を寄進

多見氏」と名乗る であり、 て追われて隠れ 江戸氏

にまでなるが、 られ、以後累進 まった。 沙汰を起こしお家断絶となってし 喜多見氏は徳芸 元禄時代に刃傷 して二万石の大名 川家康に召し抱え

14。「江戸氏」の 音提寺は慶元寺

掲示板によれば、 られている世田公 寂な場所である。 鬱蒼とした森に 世田谷区喜多見四丁目に所在。 復われており、静 谷区教育委員会の 山門の脇に立て

都から招いた詩人の「万里秀九」

太田道灌が、鎌倉五山の詩僧や

に依頼して、

江戸城の楼閣に掲げ

葉山辺に開基した江戸氏の氏寺 は京都知恩院の末寺)。 室町時代の で、当時は天台宗であった(現在 二月、江戸太郎重長が今の皇居紅

本堂の正装スタイル



の地に移り、その 多見)への移居に 中ごろ、江戸氏 勝忠が再建し、元和二年 (1616) 江戸氏改め喜多見氏初代の若狭守 た。さらに文禄二年 (1593) め永劫山華林院慶元寺と改称し の後、浄土宗に改 に伴って氏寺もこ の木田見(今の喜

の名前も変え「喜 任んだのがこの地 **るようになったよ** を賜った。

置されている。 長と寺記に記されている木像が安 に再建されたもので、墓地には江 には一族の霊牌や開基江戸太郎重 戸氏、喜多見氏の墓があり、本堂 現本堂は享保元年 (1716)



塔の手前、左側に在る 慶元寺の墓地 江戸氏代々の墓は、三重



慶元寺の参道を杉並木がつづく



そのため惣領家の求心力は弱体と

の法則によれば、最大値に近付い

クロック速度を予測するムーア

ていることにも注目したい。

マイクロCOMからスマートフォンへ PC_の展開 の進歩は、全く新しい理論・技術 の展開にかかっているようだ。 コンピュータがパーソナル仕様 1/3世紀を語る

いま使われているコンピュータ

演算を実行するもので、「ノイマ そのプログラムに従って CPU が う機能をもっている。 しつつ、異なる仕事をさせるとい ン型」といわれる。プログラム(ソ をメモリ(記憶装置)に格納し、 フトウェア)を書き替えることに 演算を行なうためのプログラム 同じハードウェアを使用 に

コンピュータが処理する中心 CPU はコンピュータの心臓部

入出力 メモリ メモリ 外部記憶 装置 入力装置 通信装置 テップを見据えることにしたい。 を振り返りつつ、次の飛躍へのス が経過した。ここでは、その歩み 携帯されるまで、ほぼ 1/3 世紀 の暮らしの中に溶け込み、身辺に アメリカでは・・・ (MHz) < 1970年代>

1000

100

10

0.1 1970

Central Processing Unit の略 この図には、CPU のトップ企業 昇は驚異的といわざるを得ない。 の変遷であるが、その急角度の上 下図に示すのは、CPUの集積度 タの進歩・普及を牽引してきた。 称で、その高性能化がコンピュー 部分の電子回路を CPU という。 インテル社の製品名を表示した。 占していた IBM (Int'l Business 1970年

タ) が家庭や事務所、 マイコン(マイクロ・コンピュー そして日常

かれ、アップル社はその基礎を築 くことができた。 気を得たので、大量生産の道が開 **売すると、このときは爆発的な人** つづいて後継の Apple II を発

1980

1975

る。NECの半導体事業部(現在 TK せ Training Kit microcom. タ (マイコン) TK-80 を発売。 のルネサス エレクトロニクス)は、 の略で、マイコン・システム開発 その数年後には改良型の TK-85 のためのトレーニングキットであ ワンボード・マイクロコンピュー

と呼ばれ、コンピュータ産業を独 青い巨人 (Big Blue) 1979 年 NEC はキーボードと本



Machines Corp.) は、 8ビッ

1976年 それに対して、ホー ブズ(Steven Paul Jobs 1955年 断したスティーブ・ポール・ジョ ンピュータ「Apple I」を開発、 実家のガレージでアップル社を 創業。愛好家のために、ホームコ 2月2日~ 2011 年10月5日)は、 1977 年に発売(200台)した。 ムコンピュータ市場への参入を決

1976年 日本電気 (NEC) が

を備え、 1989年7月、東芝は A4 ノー デスクトップタイプの

体が一体化した PC-8001 を発 売。5月に発表され、9月販売開 定価は16万8千円だった。

40K (4ビットマイコン・トレーニ の MZ-80T (ワンボードマイコン) ングキット)、つづいて8ビット シリーズを発売。1978 年 MZ-ほぼ同じ頃、シャープ社は MZ

< 1980年代>

もち、本格的な汎用型 PC の先駆 らに翌年、矢継ぎ早に、16ビット の PC-9000 シリーズを発売、漢 1981年 NECは、8000シリー ズの上位機種 8800 を発売、 パーソナルコンピュータとは・・・ 仮名の表記、ワープロ機能を さ

computer)で、わが国では通称 ち、エンドユーザーが直接操作 を「パソコン」という。PC は個 できる汎用的なコンピュータであ **八向けの大きさ・性能・価格をも**

> 1991年から1994年にかけ インターネットの商用化へ

テクチャーはほとんど同じであ としてあまねく普及した。アーキ たが、小型化したノートブック型 はじめは「デスクトップ」型だっ

computer という) は、モニタな 力装置などが本体と一体化され、 どの表示画面、キーボード、 ば、laptop, notebook, notepad ユーザーが持ち運ぶことを前提と して設計された二つ折り・軽量の

方、

利用形態は多様化した。

トサイズ、2.7kg と軽量で、最 ながら、大きい液晶ディスプレイ 小限のインターフェースを装備し

PC と互換性をもつ、DynaBook J-3100SSを発売、19万8千円と

発売され、「ノートパソコン」と 競合にならなかった。1989年10 月には NEC から PC-9801n が ト PC が先んじていたが、価格で いう安い価格は衝撃的だった。 いう新たな市場が切り開かれた。 発表したのは、エプソンのノー

クボールだったが、ついでマウスが ドの手前にパームレストとポイン 導入される)を配置、現在のノー ティングデバイス (当時はトラッ ルコンピュータが PowerBook シリーズの発売を開始、キーボー 米国では 1991 年に、アップ

されるコンピュータ (Personal 個人によって占有され、 使用 て、わが国では電話回線網が整備 Lenovo) は独自のトラックポイ なった。また ThinkPad (IBM/

でも、ネット基盤は築かれていた

ト型のノート PC(英語で

になった。携帯情報端末、または 2000年代に入ると 送受信機) と電話-(Personal Data Assistance)) ム (Personal Digital Assistant ルチメディア端末となり、PDA 帯して扱うための小型機器、マ ル、住所録、メモなどの情報を携 個人情報端末として、 高速のデータ通信が 携帯電話が登場、PCと接続して いうコンセプトが生まれた。

そしてスマートフ

トパソコンのデザインの原型と

プレイヤーの iPod は、本体に搭 き、爆発的な人気を博して世界的 発・発売した携帯型デジタル音楽 数万曲の音楽を保存することがで 載されている記憶装置に数百から 2001年11月、ア ップル社が開

され、インターネットが普及し始 根」ネットワークや大学間・ネッ トワークの構築などである。国内 ただし見落としてはならないの それ以前に開発された「草の

コモディティ化によって、製品 メーカー間の特徴は希薄となる一 PC は 64ビットの時代となり、 < 2000年代>< 2010年代> 線 LAN)が利用できる。 インターネット、電子メールに 電話接続のほか、Wi-Fi(無

のである。

続も一般化してゆく。 近年の PC 近になってしまったので、以下、 の利用については、あまりにも身 駆け足でその概略を辿ることにし なって、無線 LAN による無線接 ノートパソコンが市場の主流に

携帯電話端末の普及

トランシーバー とが融合し、 (無線電波の 行なえるよう 第三世代の スケジュー

タブレット端末と無線 LAN オンの登場

な規模で普及した。

発表、動画、電子書籍、ゲームな チパネル」を採用した、iPadを 指先をあてながら操作する「タッ を発売、2010年1 魁けとして、携帯電話の iPhone ど数多くの機能が盛り込まれた。 レット(平板)型で、 同社は「スマートフォン」の 月には、タブ 液晶画面に

は一途に上昇中のようだ。 され、携帯用個人情報機器の人気 なターゲットとして、オープ Android (アンドロ ンソースのプラッ ト PC などの携帯情報端末を主 スマートフォンやタブレッ イド)が開発 トフォーム、

地域のニュース& ギャラリー

ところ:志木市本町通り(1~3丁目) いろは市 第26回チャリティー き:平成2年8月2日 (日) 東日本大震災復興支援 午後1時~6時

サンバパレード(大通り)



「市民フォーラム」の活動

ます。
民間のコミュニケーションの増進に努め民間のコミュニケーションの増進によって市民の公共参加を推進します。また市に対して取材活動を行ない、報道によっに対して取材活動を行ない、報道によって前民フォーラム」は、地域住民と行政

お寄せ下さい。

編集部原宛にどうぞ TEL 090 (3048) 5502

本紙「市民プレス」は年四回(一、四、七、十月、 各五日) 発行。